

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2791600071		
法人名	社会福祉法人 和貴会		
事業所名	グループホームスローライフ千里		
所在地	大阪府吹田市千里万博公園6-8		
自己評価作成日	平成 28年 1月 28日	評価結果市町村受理日	平成 28年 4月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2791600071-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 3月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

万博公園が隣接した緑多い環境の中にあります。同じ建物の中には、特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護、認知症対応型デイサービスなどの6つの事業所があり、地域のお困りのかた、又は入居者様及びご家族の皆様のご相談事に臨機応変に対応出来るよう、各事業所の壁を越えて連携した支援に取り組んでいます。フロアは広々とした開放的な空間を有しており、入居者様は各々の落ち着ける場所で談笑したり、ゆったりと過ごしている外、洗濯物を干したり、たたんだり、キッチンの洗い物をして下さったりと、ご自分で出来る事にとり下さっています。そしてスタッフ達は、毎日々々を精一杯生き抜いて下さっている入居者様達が困らないように、そっと手を添え、又は、一緒に大笑いしながらサポートしています。かかりつけ医は、24時間ご家族や私達の相談に乗って下さり、入居者様はしっかりとした医療を背景に安心した生活を送ってられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは大規模な公園に隣接し、近隣には大型複合施設やレジャー施設、スタジアムがある環境の中にあります。母体は介護老人保健施設や在宅療養支援診療所等を運営する社会福祉法人で、同じ建物内に特別養護老人ホームや認知症対応型デイサービス、夜間対応型訪問介護等の介護事業所がありその中にある2ユニットのグループホームです。他市との境に位置するホームは、地域密着型サービス事業所として当該市はもとより、他市隣の地域住民もボランティア等に受け入れ地域交流を積極的に取り入れています。看護師とは24時間オンコール体制を整え、医療連携支援の充実も家族の方にも喜ばれています。職員は「利用者との信頼関係の構築」を指標に日々のケアの中でお互いが学び合い、ケアの質の向上に取り組んでいる、今後が期待される事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「日々宣誓」と共に、「私達がしたい介護」として事業所独自の理念をスタッフルームに掲げ、職員間で共有しています。	法人の基本理念は全職員が目につきやすいスタッフルームに掲げています。職員は事業所独自に「地域の NO.1を指す」を大目標に掲げ、職員間で意見交換して毎月の目標を決めて支援を実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園児と焼き芋をしたり、クリスマス会にお誘いしたりと交流しています。回想法や音楽会・傾聴・篠笛・ハッピー・スマイルと入居者様はボランティアとの交流を楽しみにしています。	職員はボランティアの方の協力を得て利用者が外部の方と交流ができるように支援を行っています。職員の紹介で他市の近隣地域の住民の方との交流の機会もあります。月1回の障がい者団体のクッキー・パンの訪問販売日は利用者も買物を楽しみにしています。また、地域の豊泉家千里体育館で行われた棒サッカー全国大会に参加、優秀な成績で表彰状とトロフィーを戴き、利用者と応援の職員も楽しみながら、地域交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、ホームの取り組みなどについて事例を用いて報告し、支援の方法を発信しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催しています。会議議事録を施設ご利用の全てのご家族様に送付するようになってから、他事行所をご利用のご家族様も参加くださるようになり、スローライフ千里全体の向上に向けた意見交換が行われています。</p>	<p>運営推進会議の規則を作成し、会議は2ヶ月に1回開催しています。会議議事録は、ホーム便りと一緒に全家族へ送付しています。会議で出た意見は参加できなかった家族にも報告し、意見を聞くようにしています。今後は、会議に地域の方が参加できるような働きかけをしていく方向です。議事録は職員にも公表していますが、全職員が共有できるように取り組んでいます。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>ケアマネは、吹田市グループホーム・特定施設部会に参加し、市担当者や管理者達と積極的な意見交換を行い、協力関係を築いています。又、地域ケア会議に参加し、ホームでの取り組みを発信しています</p>	<p>市の担当窓口とは日頃から連携はできています。外部評価の結果報告や事故報告は行っています。月1回行われる吹田市グループホーム特定施設部会や地域ケア会議に参加し、担当者と情報交換や相談できる体制を構築しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会への参加しや、「身体拘束0への手引き」でスタッフに閲覧研修を実施し、日頃のケアの振り返り、拘束しないケアに取り組んでいます。1階に通じるエレベーターは電子ロックで施錠していますが、操作盤の上に暗証番号を表示しています。エレベーター前で扉が開くのを待っている入居者様がいらしたら、そのまま外出掛けるようにしています。</p>	<p>マニュアルを作成、運営規程にも明記し、身体拘束廃止委員会に参加しています。「身体拘束0への手引き」を使い施設全体の研修を年1回実施、ホーム内研修も年1回実施し、拘束のないケアに取り組んでいます。職員はスピーチロックも拘束として共有して支援に取り組んでいます。日々のケアの中で、利用者の行動にも気を配り、外出を希望される方には職員が付き添っています。居間の前の広いベランダへの出入りは自由でテラスとして活用、職員は利用者に閉塞感を感じさせないケアを実践しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全スタッフに対して「高齢者虐待防止と権利擁護」の閲覧研修を実施し、意識付けしています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ケアマネは、認知症実践者研修において、成年後見制度について学ぶ機会を持っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテークや契約締結時に、不安や疑問を尋ね、事務長及び管理者・ケアマネは丁寧な説明に心掛け、入居者様やご家族様の理解と納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱をホーム内に設置しています。又、市の介護相談員を受け入れ、外部者に要望を表せる機会も作っています。ご家族からの苦情に値する要望は「苦情受付・経過記録書」を用いてスタッフに周知・検討を行い、解決策を実施しています。	ホームは今年度より家族会を開催しています。家族会や運営推進会議では、外出の要望や利用者宛の郵便物の開封の方法、領収書の記載内容など利用者や家族から出た意見を話し合っています。検討した結果は運営推進会議の議事録やホームの便りに記載し、家族に送付しています。今後は、入退職の職員動向についても便りで報告して行く方向です。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度フロア会議を開催し、職員の意見や提案を業務改善やケアの見直しに反映させています。又、管理者は、4月に人事考課票を基に個人面談を行い、7月には「ここが出来ていないな」「気になるな」ということを全スタッフから提出してもらい、スタッフ間の風通しを良くし、士気向上に繋げています。	月1回フロア会議を開催しています。会議では職員の提案で勤務時間の検討を行い、実際に勤務時間を変更することで、スムーズに業務が行えるようになった事例があります。毎月、職員は月の目標をたて、職員全員で話し合い、ホームの1ヶ月の目標を1つ選び、職員間で共有して日々の業務に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎年4月、スタッフ個々の評価に基づいて昇給を行っています。又、介護福祉士、基礎研修終了者等の資格手当を見直し、引き上げています。 法人全体の新年会にて、功績のあった職員を表彰しています。また、資格取得者や5年・10年勤続者への表彰も行っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>リーダーは実践者研修を受けています。又、外部から認知症介護指導者を招いて「認知症の理解」として研修を行い職員育成に努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者、ケアマネは、吹田市グループホーム・特定施設部会に参加し、吹田市介護フェアに取り組むことで、同業者と積極的な交流を行っています。又、同会において勉強会が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にはご本人の面接を行っています。又、利用していた事業所関係者からもアセスメントを行い、安心してご入居出来る様に努めています。ご家族にセンター方式B-2、B-3を記載して頂き、より良い関係作りに役立っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりとお話をうかがう時間を設けています。又、ご家族の意向や希望は「ご家族との連絡簿」に記録し、スタッフ間で周知し、対応することで、より良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの第1の課題に設定し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見出し、お互いに役割を持った生活が営めるよう、ケアプランにも設定し支援しています。「ありがとうございます」と感謝の言葉をお互いに掛け合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの見直しはご家族と共に行っています。又、必要な日用品等は、出来るだけご家族に持参して頂けるよう連絡を取っています。いつもと違う様子が見られたら連絡させて頂き、時には協力を得ています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との関係を大事に考え、外泊等して頂いていました。又、法事への参加や、お正月に帰宅される等、積極的に協力しています。	利用者の馴染みの美容室や喫茶店、基会所に出かける際は、職員が付き添い支援を行っています。利用者の希望で家族に電話を掛け、会話を楽しんでいただくこともあります。法事や墓参りに家族と一緒に出かけの方がいます。また、利用者が以前住んでいた地域の民生委員の方や近所の方が家族と一緒に来訪され、利用者との交流を楽しまれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は、利用者同士の関係性に合わせて設定しています。又、引きこもりがちな入居者様には、ケアプランの課題に設定し、孤立しない支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事にボランティアで来て下さるなどサービスが終了しても関係を継続して下さっています。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様から得た希望や意向は、「暮らしの希望・意向」用紙に記録し、出来る限り実現できるよう努めています。	利用者、家族からの意向や希望は「暮らしの希望・意向」用紙や気づきノートに記載して職員で共有しています。読書の好きな利用者には、絵本や童話の本のコーナーを設けて、好きな本を手にとってもらっています。食事の嗜好や歌、かるた、花に水やりなど利用者一人ひとりの意向にあった対応をしています。また、今後、動物好きの利用者にドッグセラピーを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様からセンター方式B-2、B-3の情報を頂き、これまでの暮らしの把握に努めています。又、入居後に得たなじみの暮らし方や生活環境等については、「ご家族様との連絡簿」に記載して、スタッフに周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースファイル記録を用いて把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当スタッフは毎月モニタリングを行い、そのモニタリングをご家族に報告し、ケアプランを作成しています。又、必要に応じてカンファレンスを行い、ご家族の同意の元、ケアプランに反映させています。かかりつけ医、リハビリ事業所等の専門職とも連携しています。	担当職員とケアマネジャーはモニタリング、カンファレンスを行い、利用者や家族のニーズを把握し計画を作成しています。また、新たな利用者の情報は気づきノートに記載し、職員全員で共有しています。日々の職員の気づきやカンファレンスの情報を反映した計画作りを心掛けます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースファイルに記録し、情報を共有しています。その中での気づきや工夫は、ケースカンファレンスとして特別に取り上げ、ケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「暮らしの希望・意向」「ご家族との連絡簿」を用いて、その時々得たニーズに対して、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社のお祭りや初詣に出掛けたり、花火大会も楽しんでいます。四季折々に万博公園も活用しています。散歩に出掛け、アドプトロードの花壇でお花を摘むことを楽しみにしている入居者様もいらっしゃいます。吹田社協の取り組みに積極的に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と利用者の同意を得て、24時間医療連携している、かかりつけ医の定期的な訪問診療を受けています。他科受診が必要と判断した時は、かかりつけ医の紹介を受け、ご家族との同意を得た上で、管理者・ケアマネが通院介助を提供したり、ご家族がどうしても同行出来ない定期受診に関しては管理者・ケアマネが付き添っています。	看護師を配置し利用者の日常的な健康管理を行っています。24時間医療連携を行い、夜間や緊急時にはオンコールで対応しています。内科医の往診が2週間に1回あり利用者は受診が可能です。週1回歯科医の往診があり、必要に応じて利用者は受診しています。また、月1回、眼科医の往診もあります。泌尿器科、整形外科、精神神経科、皮膚科等は家族の協力のもと受診していますが、家族の希望により、職員が同行することもあります。受診後は家族に連絡し、情報を共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケースファイルを開示し、看護職と連携しています。又、「看護職さんとの連絡簿」を用いて、看護職が行った処置等の情報をスタッフ間で共有し、時に指導も受けています。適切な診察が受けられるよう、往診時の情報を看護師に提供しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、かかりつけ医から診療情報提供書を提出し、当所ではサマリーを作成し、情報提供に努めています。必要時にはかかりつけ医に入院先への連絡を依頼し、早期退院へ向けて調整して頂いています。病院主催の研修や検討会に参加し、関係作りにも努めています。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を用いて、終末期ケアの考え方やあり方について十分に話し合いを行い、ご家族、かかりつけ医とその方針について共有し、取り組んでいます。	「看取りに関する指針」作成し、早い段階から家族と話し合い方針を共有しています。ホームで看取りを行った事例があります。職員は看取りの事例を通じて指針見直しの必要性を感じ、現在見直しを検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「転倒・転落対応マニュアル」「緊急対応マニュアル<日中の場合><夜間の場合>」等の応急処置マニュアルをスタッフルームに掲げ、速やかに実施出来るようにしています。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えるマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。本年度は各フロア合同での火災避難訓練に取り組み、入居者様にも参加して頂き避難訓練を行いました。又、水、食料の備蓄も完備しています。	災害に備えるマニュアルを作成し、年2回消防署と連携して防災避難訓練を実施しています。訓練時は利用者も職員とともに参加体験しています。非常口の鍵は職員が持ち出しやすい場所に保管しています。備蓄は建物施設全体で数日間分を完備しています。また、最近大型複合施設ができたこともあり、混雑時の道路の渋滞を見通し、行政や地域と交渉を行い緊急時の搬送経路の確保に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の利用者に合わせた、分かりやすい丁寧な言葉掛けに心掛けています。1階にはマザーテレサの「言葉は運命になる」を掲げ、職員の意識向上に努めています。	職員は日頃から利用者のプライバシーに配慮したケアを心がけています。利用者の要望にはすぐに対応し待たせないような支援を心がけています。日頃のケアの中で、利用者一人ひとりの人格を尊重し丁寧で分かりやすい言葉かけを行っています。職員は3月の月間目標「利用者のよい所を見つけ一日1回褒める」を実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「暮らしの希望・意向」に記録し、実現できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせた対応や、利用者一人ひとりがしたいこと、その時々に合わせて、柔軟に対応出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でおしゃれを楽しむことが出来る方には、入浴後の衣類をご自分で選んで頂いています。選ぶことの困難な入居者様には、ご家族が着せて上げて欲しいと持参して下さった衣類等を提供しています。毛染めの提供もしています。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて流しそうめんや餅つきをしています。麺類の時は、皆でおにぎり作りをし、たこ焼き・バーベキュー等、おやつレクとしてフルーツヨーグルト作りもしています。その時の準備は入居者様と一緒に取り組んでいます。施設の取り組みとして、バイキングが行われ、ご家族と楽しんでいます。	食事は同じ建物の1階にある厨房で調理し配膳されてきます。ご飯はホームで炊いています。利用者一人ひとりの好みや状態に合わせ、食器をワンプレートにして食べやすい対応で食事支援をしています。おやつレクリエーションではお好み焼きや、たこ焼き、かき氷などを利用者と一緒に作り、毎年秋にはバーベキューを実施し、利用者と家族と一緒に楽しんでいます。職員は今後、誕生日会などを開催し、ケーキ作り等も一緒に楽しめるよう取り組む方向です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	ご飯の盛り付けはご本人にして頂いて います。水分は、制限がある方以外は 1日1500CC以上を目標に、様々な飲 料水を用意して楽しんでいただけるよ う工夫しています。食事量が少ない方 には、ご家族と協力しながら好物を提 供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施しています。歯 科医、歯科衛生士の指導の元、口腔 内の状態に合わせたケア方法を提供 しています。		
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	ケースカンファレンスを開催し、排泄 し、排泄ケアに取り組んでいます。必 要に応じてケアプランの課題に設定 し、統一した対応を提供することで、ト イレでの排泄、清潔保持に努めていま す。又、過剰なトイレ誘導が無いよう に、その人に合わせた排泄パターンの 把握にも取り組んでいます。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの パターンを把握し、日中はトイレでの排 泄を目指して支援を行っています。個 別のカンファレンスを行い、プランに基 づいて、職員が統一した対応をするこ とで利用者に心地よいケアになるよう に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1000cc以上の水分補給に取り組んでいます。便秘が目立つ入居者様には、便秘解消をケアプランに掲げ、取り組んでいます。又、かかりつけ医と連携し、下剤を調節しています。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、ほぼ決まっていますが、希望があればその時に入浴して頂いています。施設内にある大浴場も利用し、入浴を楽しんでいます。	利用者は3日に1回入浴ができるように支援しています。希望があれば他の日にも入浴は可能です。入浴を好まない方には、時間や担当者を変えて対応しています。2ユニットの浴槽を変えて支援を行う事で入浴ができるようになった事例があります。利用者の希望に合わせて、同性介助を基本にしていますが、2人介助が必要な方には、大きめのバスタオルを使用するなど、利用者のプライバシーや、羞恥心に配慮してケアを行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて休息しています。起床も、個人に合わせた時間に対応しています。又、ご家族がご持参下さった馴染みの枕や布団を使用している入居者様も居られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルに綴じ、スタッフがいつでも閲覧できるようにしています。又、薬の変更に伴う注意点や副作用に関する情報は訪問薬局から指導を受け、申し送りノートに記録し、スタッフ間で周知し観察を強化しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式B-2、B-3で得た情報、サービス担当者会議においてご家族から得た情報を基に、利用者個々の生活に合わせた余暇の過ごし方に取り組んでいます。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出を楽しんでいます。「暮らしの希望・意向」で得た情報に関しても、実現出来る様取り組んでいます。又、ご家族との外出や一時帰宅の支援も行い、必要な時は介護タクシーも利用しています。	ホームは緑の多い環境の中にあり、利用者は日常的な散歩や外出で四季を楽しんでいます。年間行事として花見や紅葉狩り、食事会には家族と共に外出交流の機会となっています。季節に合わせてバラ園等に出かけることもあります。今後は近くの水族館へも出かける計画をしています。家族の協力のもと外出や外泊をする利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心される方には、紛失の可能性を了承いただいた上で身に付けて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時には電話をしたり、手紙のやり取りをしています。年賀状を送る支援もしています。		
52		○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の行事に合わせて、玄関やリビングを飾り、季節感のある空間作りに配慮しています。「食事を楽しむ所」「談話を楽しむ所」「音楽鑑賞を楽しむ所」等、用途に合わせて寛げるよう工夫しています。	ホームは建物の2階にあり、玄関からはエレベーターにて階上、ホームは2ユニットのスペースを解放的に活用しています。共有スペースには加湿器を置き、温・湿度調整を行い、居心地よく過ごせるように工夫しています。談話室にはソファや小テーブルを配置、利用者は一人ひとりが思い思いに使えるスペースがあり、それぞれの居場所でゆっくりくつろいでいます。居間には大きな窓があり明るい雰囲気、居間の前の広いテラスには鉢植えの花壇があり、天気の良い日には外気浴を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合った居場所や寛げる空間作りを常に検討し、模様替えを行っています。		
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅訪問を行い、出来るだけ馴染みの物を持ってきて頂ける様、お願いしています。	居室は机、タンスやベッド、エアコンが備え付けてあります。空調は職員が協力して調整しています。利用者は自宅で使用していた馴染みの物を持ち込めるような支援をしています。使い慣れた家具や鏡台、椅子、テレビ、家族写真、趣味の物などを持ち込み、その人らしく過ごせる雰囲気のある部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と分かりやすく表示しています。スタッフは「できること」「わかること」の観察に努め、工夫した対応をすることで「できるようになった」事をケースファイルに記録し、楽しく自立した生活が送れるよう努めています。		